

2nd APNG Camp@上海 報告

2002年9月20日 (金)

株式会社日本レジストサービス

遠藤淳

<endo@jprs.co.jp>

本日の内容

1. Camp開催の背景
2. 2ndAPNGCamp@上海 概要
3. APNGCampの今後

Camp開催の背景

- これまでAP地域のインターネットの発展を支えてきた senior (第一世代)の問題意識
 - 自分達に続く、若い世代が育っていない。AP地域のインターネット関連組織のchairはすべて40代～60代である。北米では、20代～50代まで分布している。
 - AP地域のインターネットを健全に発展させるためには、若い世代を育てる必要がある。
 - AP地域内の若い世代の相互交流を促進する場が必要。
 - 若い世代の活躍で自分達が退場せざるを得ない状況になるくらいが望ましい。

2ndAPNGCamp@上海 概要 (1)

- The 2nd Asia Pacific Next Generation Camp
 - 開催日 :2002/08/28 ~ 08/29
 - 会場 :Radisson SAS Hotel/ 上海蘭生大酒店(中華人民共和国上海市)
 - APAN,AP*と同じタイミングで開催
 - 出席 :延べ70名弱。登録者数は61名。日本からの登録者は10名。
 - 登録者内訳 :
 - Australia:2、Cambodia :1、China :16、Japan:10、Hongkong:1、Korea:18、Malaysia:2、Singapore:1、Taiwan:2、Thailand:7、US:1
 - Chair : Sunyoung Yang(yangyang),Haja Center (KR)
 - Vice-Chair : Jie An, CERNET(CN)
 - 日本からのyouth参加者は、牧兼充 (慶應大助手)、史虹波 (早稲田大助手)、柴田巧 (慶應大3年)、遠藤淳 (JPRS)の4名。

2ndAPNGCamp@上海 概要 (2)

- 第1日(8/28)
 - (1)8:30-10:00 開会全体セッション
参加者全員が2～5分で自己紹介を行った。
 - (2)10:30-12:00 基調講演
 - a) “Asia Cultural Network” : Kuan-Hsing Chen(Chung-hwa Univ.,TW)
 - b) “Internet leadership in AP” : 村井純(Director of ICANN,JP)
 - c) “Internet policy in AP” : Paul Wilson (Director general of APNIC,AU)
 - (3)13:30-15:30 全体セッション「アジア太平洋における次世代人材のネットワークについての討論とホームページプレゼンテーション」
 - 1 UniNet(TH): Manutsiri Chansutthirangkool
 - 2 Cultural Studies of Shanghai Univ.(CN): Ni Wei
 - 3 ASES(KR): JungWon Suh
 - 4 Haja Center(KR) : Sena Cho

2ndAPNGCamp@上海 概要 (3)

- 第1日(8/28)
 - (4)16:00-18:00 分科会
 - 遠藤は、"Asia Youth Culture"のセッションに参加。
 - c)"Asia Youth Culture" Chair:JungWon Suh (KR)
 - 1. アジアとは?
 - 2. 米国文化の影響を受けたアジアの若者文化を「アジアの文化」と呼んで良いのか?
 - 他のセッション
 - a)"Young feminist network in AP" Chair: Oiwan Lam (HK)
 - 参加者は女性のみ。Haja Centerからの中継参加もあった。一般の学生主体の国際交流会との差異化が今後の課題
 - b) "Internet Policy in AP" Chair: Pensri Arunwatanamongkol (TH)
 - Seniorの多くがこのセッションに参加した。Spam問題,IPv6の役割について討論。

2ndAPNGCamp@上海 概要 (4)

- 第2日 (8/29)
 - (1)8:30-10:00 パネルディスカッション :デジタルデバイス
 - Chair: Yekyung Kim (Ewha Womens Univ. :KR)
 - Panel: 会津泉(アジアネットワーク研究所、GLOCOM :JP)、Le Ricky Lu(BII Group Holdings Ltd. :CN)、Norbert Klein(Open Forum of Cambodia)
 - (2)10:30-12:30 閉会全体セッション
 - Chair: Albert Wang(TWNIC)、松本敏文(JPNIC)
 - a) Chairによる総評
 - b) 分科会の報告
 - c) パネルディスカッション
 - 急遽開催され、senior,youngそれぞれ5名のパネリスト今回及び今後のAPNGCampにつき、seniorとyouthが意見を述べるという内容。遠藤もパネラーとして参加
 - Seniorのパネラー :Kilnam Chon (KR) Xing Li (CN) 会津泉(JP)、Norbert Klein、(KH)、Paul Wilson (AU)

APNGCampの今後 (1)

- 参加者の「共通言語」は何か？
 - 韓国からは自然科学系のバックグラウンドを持っている層ではなく、HajaCenter(<http://haja.net/>)のメンバを中心とする、Webサイト制作等を行っている人文系・芸術系バックグラウンドを持った参加者が多く、彼らの関心の持ち方と従来のAPのインターネットコミュニティを支えてきた技術者を中心とするsenior層及び彼らから直接指導を受けている若い層との間で「インターネット」を接点にどこまで有機的に議論が行えるかが、今後の課題。
 - インターネット利用者は広がっており、第一世代のように技術者中心、男性ばかりではなく、「男女比が1対1の集まりに出るのは初めての体験だ」(村井さん)という状況は肯定的に捉えたい。
 - 日本から参加者層のイメージを提示し、committee内で調整
- プログラムそのものの充実とコミュニティへの還元方法
 - 適切なテーマの選択と十分な準備が必要。参加者間のその場での交流だけでなく、議論されたものがコミュニティに還元できるようにしたい。
 - いきなり参加するのではなく、参加予定者の準備段階からの積極関与
 - Youth間だけでなく、SeniorとYouthの間でも議論できるテーマの選択

APNGCampの今後 (2)

- AP とAPNGCampの関係は？
 - 若手同士の交流の機会を増やすということであれば AP に若手を積極参加させることではダメなのか。
 - 今回のプログラムの内容とCampを始めた動機(次世代のリーダ育成等)は合致しているのだろうか。
 - 一般的な若者の国際交流の場とは違うという点をより強く意識する・打ち出すことも必要ではないだろうか。
- 日本からの積極参加
 - 積極的な関わりを持たないと、AP地域のコミュニティに対するJPとしてのプレゼンスが低下しかねない。更なる参加は必要。日本国内からの参加者を募るにあたり、どのような層、組織にアプローチ・アピールしていくかが課題。
 - JPNICのチャンネルのフル活用
 - 大学、大学院生への積極告知